

碧い湖

第68号 発行:2019年4月15日

aoiumi

Vol.
68

公益社団法人 滋賀県環境保全協会 広報紙



特集

プラスチックを取り巻く国内外の状況

第5次環境総合計画の策定

健全な循環の構築に向けて

page 09 | 会員企業の環境取組紹介

日本電気硝子株式会社

page 12 | 新規入会会員のご紹介

SDGsを活かす

公益社団法人 滋賀県環境保全協会
会長 仁連 孝昭

2015年の国連総会で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)はいまや知らない人がいなないほどに知れ渡るようになってきた。しかし、だからといって何か変わったであろうか。変わっていないというのが正直なところではないだろうか。私たちは遵守しなければならない基準や法的規制には敏感であるが、2030年の目標を示されたとしても、それほど真剣に受け止めるようなことではないと考えがちではないだろうか。SDGsのバッジを胸に付けている人を多く見かけ、企業のCSR報告書あるいはサステナビリティ報告書にはそれぞれの企業で実施している事業が17のゴールのうちのどれにあたるものであるか分かりやすく紹介されている。企業をあげてSDGsに取り組んでいることが表明されている。しかし、グローバルな課題、社会課題に応え自らの企業を変革しようという志向性がそこには見えてこない。

SDGsの目標が示しているのは、それらが達成されないと世界の不確実性が増し、人々の生活が損なわれ、経済が機能しなくなることばかりである。環境が破壊され、気候が極端に変化し、社会の安定性が損なわれ、未来を担う世代が育たず、紛争を招くことを避けるために、SDGsは何をしなければならないかを示している。そして、そのためにはこれまでの延長線上で考え方行動するのではなく、自らの組織や行動を変革することが必要となっている。これまでの規範では、badを排除するための規制が外から与えられ、それを遵守するために自らの組織や行動の微調整を行うことであった。しかし、これから求められる規範は、goodを創出するために、自らの資源を用いてそれに適応できる組織や行動を創出することである。これまでのbad排除のための戦略とこれからのgood創出のための戦略はまったく異なるものである。

新しい戦略のひとつは、フォーキャストからバックキャストへの転換である。フォーキャストは現状から出発し、現状をどのように改善できるかを考えるのに対して、バックキャストは将来の目標から出発し、どうすれば将来の目標を現実のものにできるかを考えるものであり、実現手段の選択肢の幅は前者と比べて大きく広がるとともに、創造的な発想が必要とされる。

もうひとつは、組織内の対応から組織を越えた対応への転換である。企業活動を支えているのは企業組織の中だけにとどまらず、バリューチェーン、多様なステークホルダーそして社会全体へと広がってきてている。内側だけでなく外側に目を向けた対応がますます重要なになってきている。そのために内部コミュニケーションと合わせて、外部コミュニケーション力が必要とされる。

これに関して、SDGsの基本である、統合性、包摂性、参加型、透明性・説明責任が参考になる。問題を狭くとらえるのではなく経済、社会、環境すべての側面からとらえることがコミュニケーションの前提となり、あらゆる人を対象に視野に入れたコミュニケーションをすることであり、製品やサービスの送り手と受け手という関係ではなく、すべてのステークホルダーがそれぞれの役割を果たしているという前提でのコミュニケーションであり、そして透明性と説明責任がコミュニケーションを支えているという認識である。

SDGs という社会規範に対応していることを示すことから、それを取り込みサステナブルな企業への自己変革力へと血肉化することを期待したい。

プラスチックを取り巻く 国内外の状況

環境省 環境再生・資源循環局リサイクル推進室
金子 浩明

① サーキュラーエコノミーの国際的潮流

2015年12月、欧州委員会がCircular Economy Packageを発表した。製品と資源の価値を可能な限り長く保全・維持し、廃棄物の発生を最小限化することで、持続可能で低炭素かつ資源効率的で競争力のある経済への転換を図るというものである。特にプラスチックについては、優先分野とし、2018年1月に欧州委員会はPlastic Strategyを発表。2030年までに全てのプラスチック容器包装を、コスト効果的にリユース・リサイクル可能とすることやシングルユースプラスチックの削減の方向性などを盛り込んだ。

② 中国から東南アジア諸国に広がる プラスチックごみの輸入規制

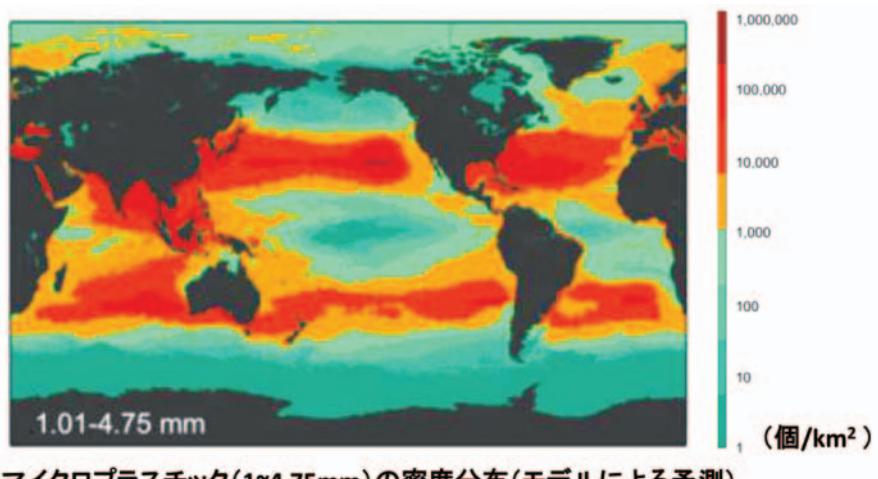
中国政府が2017年12月末に生活由来の廃プラスチック等の輸入を禁止したことにより、中国への廃プラスチックの輸出が激減した。また、その影響で、東南アジア諸国がその受け皿となり、そうした国への輸出が一時的に増大したもの、東南アジア諸国でもプラスチックごみの輸入に制限をかける国が出てきた。

その結果、輸出量は例年の5割程度まで減少。国内での廃プラスチックの滞留が懸念されたことから、環境省では2018年8月にアンケート調査を実施。一部地域において上限超過等の保管基準違反が発生していること、一部処理業者において受入制限が実施されていることから、今後、廃プラスチック類の適正処理に支障が生じたり、不適正処理事案が発生する懸念がある状況であることが分かった。海外への輸出量が減少していく中、国内におけるリサイクルインフラの質的・量的確保や利用先となるサプライチェーンの整備をはじめ、適切な資源循環体制の構築が急務となっていることから、環境省では、2017年度からプラスチックのリサイクル設備の導入に対して2分の1を補助する事業を開始。2019年度は、補正予算も含めて93億円の予算を計上しているところであり、是非活用いただきたい。



③ 海洋プラスチックごみ問題

海洋プラスチックごみ問題は從来から認識されていた問題であるが、イギリスのエレン・マッカーサー財団が、2016年1月の世界経済フォーラム（ダボス会議）年次総会に合わせて発表した報告書において、海洋に流出しているプラスチックごみの量は、世界全体で少なくとも年間800万トンあり、このまま何の対策もとらなければ、海洋に漂うプラスチックごみの重量は、2050年には魚の重量を上回ると警鐘を鳴らしたことが注目され、国際的な関心が一層高まっている。最近では、海洋プラスチックごみの中でも、直径5mm以下の微細なプラスチック粒子「マイクロプラスチック」による影響も懸念されている。マイクロプラスチックを含むプラスチックの海洋への流出状況や、人・生態系への影響についてよく実態を把握するとともに、陸域でのプラスチック資源循環やポイ捨て・不法投棄の撲滅を徹底した上で、清掃活動を含めた陸域での廃棄物適正処理、マイクロプラスチック流出抑制対策、海洋ごみの回収処理等を着実に進めていくことが重要となっている。



④ プラスチック資源循環戦略の策定に向けて

こうしたことなどを背景に、環境省では、プラスチックの資源循環を総合的に推進するための戦略（「プラスチック資源循環戦略」）を策定すべく、2018年8月に中央環境審議会において議論を開始した。2018年12月末まで行っていたパブリックコメントで示したプラスチック資源循環戦略（案）においては、基本的な対応の方向性を「3R+Renewable」とし、

- ①資源循環（レジ袋有料化義務化をはじめとしたリデュース等の徹底、効果的・効率的で持続可能なリサイクル、再生材・バイオプラスチックの利用促進）
- ②海洋プラスチック対策（2020年までに洗い流しのスクラップ製品に含まれるマイクロビーズの削減徹底など）
- ③国際展開
- ④基盤整備

という4本柱を重点戦略とし、具体的な施策の方向性を示している。また、本戦略の展開に当たっては、世界トップレベルの野心的な「マイルストーン」を目指すべき方向性として設定。「2030年までに、ワンウェイのプラスチックを累積で25%排出抑制」、「2030年までにプラスチック製容器包装の6割をリユース又はリサイクル」、「2035年までにすべての使用済プラスチックを熱回収も含め100%有効利用」、「2030年までに、バイオマスプラスチックを最大限（約200万トン）導入」などを掲げている。

今後、2019年3月までに中央環境審議会から答申をいただき、6月に日本で開催されるG20までに、政府としてプラスチック資源循環戦略を策定する予定。この戦略により我が国としての実効性ある対策を打ち出し、G20における海洋プラスチックごみや資源効率性に関する議論をリードしていく考えである。

⑤「プラスチック・スマート」キャンペーン

環境省では、海洋プラスチック問題の解決に向けて、幅広い主体が取組を進めるこを後押しするため、2018年10月に「プラスチック・スマート」と銘打ったキャンペーンを立ち上げた。本キャンペーンでは、自治体・NGO・企業・研究機関などから、ポイ捨て・不法投棄撲滅の運動、散乱ごみや海岸漂着物の回収、リデュース(例:ワンウェイのプラスチックの排出抑制)、リユース(例:イベントでのリユース食器の利用)、リサイクル(例:再生プラスチックを使用した製品の開発・利用)、代替素材(紙やバイオマスプラスチックなど)を使用した製品の開発・利用などの取組をキャンペーンサイトを通じて募集し、登録いただいた事例を国内外に発信するとともに、個人に対しては、ごみ拾いイベントへの参加、マイバッグやマイボトルを活用したワンウェイのプラスチックの使用抑制、再生プラスチックを使用するなど環境に配慮した商品の購入等などの取組・アイディアに関する写真・コメントをSNS(instagram・Facebook・twitter等)上で「#プラスチックスマート」のタグをつけてシェアしていただくことを呼びかけている。

プラスチック・スマート — for Sustainable Ocean —

個人、地域など

<取組例>

- ・ポイ捨て撲滅、ごみ拾い活動への参加

- ・マイバッグの活用、リユースなどプラスチックの有効利用

連携協働

NGO 企業、行政など

<取組例>

- ・散乱ごみや海岸漂着物の回収
- ・ワンウェイのプラスチック排出抑制
- ・バイオマスのプラスチックや紙などの代替素材の利用

目的

海洋プラスチックごみ問題の解決に向けて、個人・NGO・企業・行政など幅広い主体が連携協働して取組を進めるこを後押しする。

内容

一つの旗印の下に幅広い主体の取組を募集・集約し、ポイ捨て撲滅を徹底した上で、不必要的ワンウェイのプラスチックの排出抑制や分別回収の徹底などの“**プラスチックとの賢い付き合い方**”を全国的に推進し、我が国の取組を国内外に発信する。

一つの旗印の下に取組を集約

「プラスチック・スマート キャンペーン



共通ロゴマーク

国内外に
発信



「G20 持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合」の機会にフォーラムを実施し、

優良な取組を大臣表彰・発表

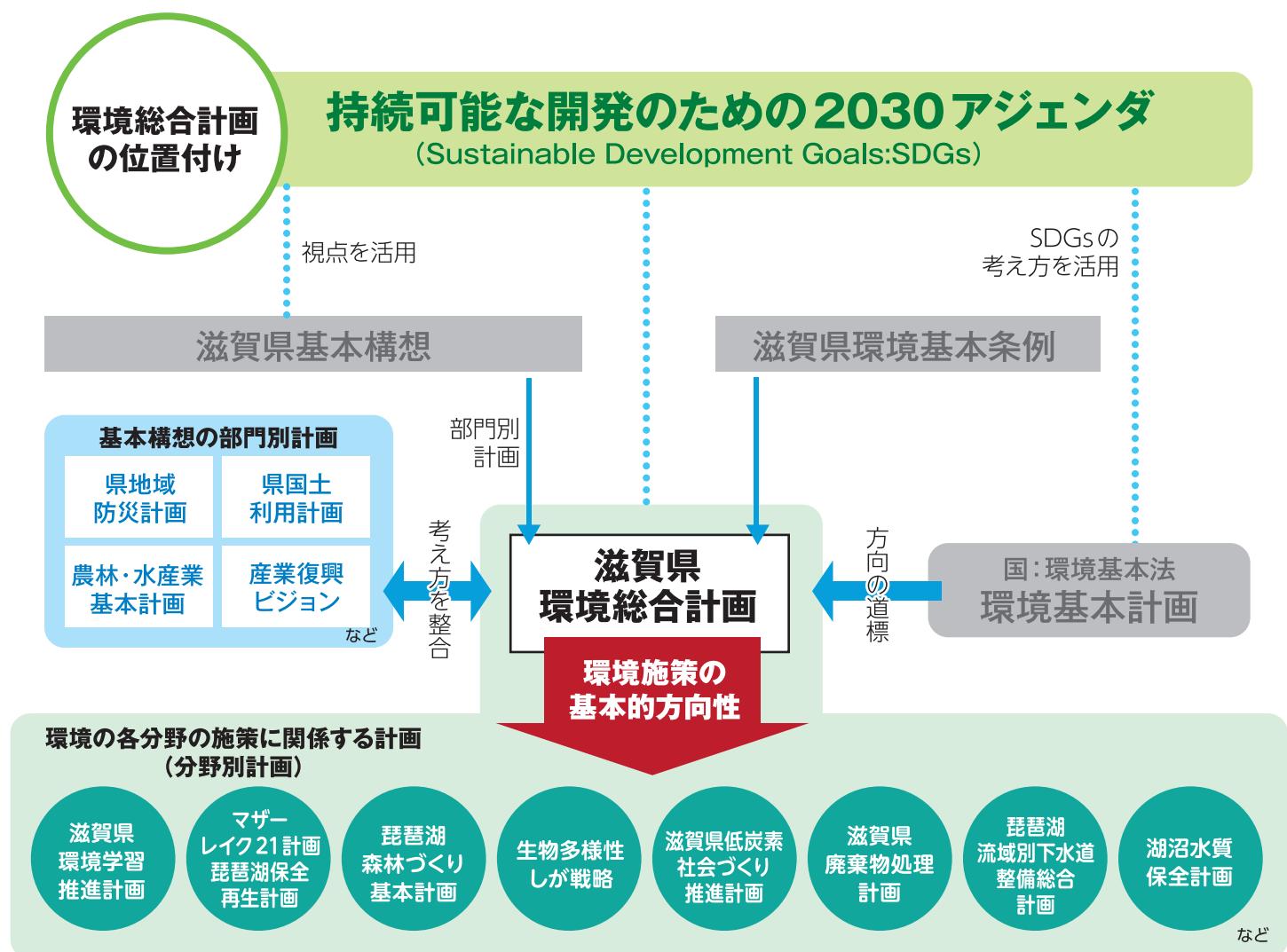
環境と経済・社会活動をつなぐ 第5次環境総合計画の策定 健全な循環の構築に向けて

はじめに

環境総合計画は、滋賀県環境基本条例に基づく環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための計画で、環境の保全に関する長期的な目標、施策の方向、環境への配慮のための指針その他の重要事項を定めるものです。

平成30年度末で第四次計画が終了するため、近年

の社会、経済等の様々な情勢の変化に対応し、県の環境施策の実効性を高めるため、新しい計画の策定作業を行ってきました。3月15日に県議会の議決をいただき、2030年度までを計画期間とする「第五次滋賀県環境総合計画」を策定しました。



人口減少時代を見据えた長期計画

第四次計画では3つの基本目標のもとで施策を進めてきました。その結果、琵琶湖の水質は一定改善されました。しかし、近年、漁獲量の減少や水草の繁茂、獣害など、生態系に関するさまざまな問題が表れています。

本格的な人口減少と高齢化の時代を迎え、第五次計画の特徴は次の4つです。

一つ目は、より長期的な視点から目標と施策の方向性を示すため、「2030年度までの12年間の計画」としたこと(第四次計画は5年の計画でした)。2030年度はSDGsと滋賀県基本構想の目標年次でもあります。

二つ目は、12年の長期計画となることから、第四次計画の評価をしっかりと踏まえ、目標年次である

「2030年の環境の見通し」を新たに示したことです。

三つ目は、2030年という目標年次を見通した上で、「いかに環境への負荷を抑制するか」という視点だけでなく、「いかに適切に環境に関わるか」という、より広い視点のもとで、「SDGs等の環境保全にかかる新しい考え方を踏まえて『環境と経済・社会をつなぐ健全な循環』を構築すること」を目標としたことです。

そして四つ目は、施策の方向性として、第四次計画の3つの柱に「国際的な協調と協力」を加えた4つの柱のもと、従来の7つの施策の分野を「活用」などの視点から見直し、「環境インフラ等」「調査研究・技術開発」「国際的な協調と協力」の3つを加えて10の分野としたことです。

環境保全にかかる新たな考え方

- 持続可能な開発目標(SDGs)
- パリ協定
- 第五次環境基本計画(国)
- 琵琶湖の保全再生施策に関する計画

「いかに環境への負担を抑制するか」だけでなく
「いかに適切に環境に関わるか」というより広い視点へ

共生

地域資源の活用を通じて
「自然と人」「人と人」「地域と地域」
の共生をつくる

「守る」「活かす」「支える」

「支える」取組のもと、「守る」
取組で地域資源の価値を高め、
「活かす」ことでさらなる
「守る」取組を進める

協働

「環境自治」の理念のもとで、
多様な主体の参画による
協働を進める

施策の方向性

1. 琵琶湖をとりまく環境の保全再生と自然の恵みの活用

- ①琵琶湖の保全再生・活用
- ②生物多様性の確保・森林の多面的機能の発揮

3. 持続可能な社会を支える学びと暮らしの定着

- ⑥環境学習
- ⑦環境とのつながり・関わり
- ⑧環境インフラ等
- ⑨調査研究・技術開発

2. 気候変動への対応・環境負荷の低減

- ③気候変動
- ④環境リスク
- ⑤循環型社会

4. 国際的な協調と協力

- ⑩国際的な協調と協力

計画の進捗状況は分野別計画の評価を活用して確認し、毎年、環境白書としてとりまとめ、広く公表します。

また、計画期間が長期にわたるため、期間内でも必要に応じて見直しを行うこととしています。

企業の皆さんに期待すること

SDGsや滋賀県基本構想でも、持続可能な経済・社会活動は環境の基盤の上に成り立つことが示されています。第五次計画では、この関係性のもとで、琵琶湖環境では、森・川・里・湖のつながりの中で人を含む様々な生きものが生息し、「循環」のもとで一つの系(システム)を形作っていると捉えています。

持続可能な社会を実現するためには、「生態系・自然界における循環」のもとで生み出される自然の恵みを「経済・社会活動」において適切に活用するという視点が重要です。同時に、「生態系・自然界における循環」を損なわないよう、環境への負荷を削減し、保全のための投資や活動などを通じた生態系・自然界への貢献を

行うことで、「環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環」を実現することが求められます。

これが計画の目標である「環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築」の考え方です。

持続可能な社会の実現に向けて、企業のみなさんは、従来の公害対策にとどまらず、資源を適切に利用すると同時に、環境配慮型の製品やサービスを生み出し、環境を守るために投資を行うなど、経済活動を通じて健全な循環に貢献いただくことが求められると思います。活力あふれる循環共生型社会の実現に向けて力を合わせてまいりましょう。



日本電気硝子株式会社

▶企業概要



本社：滋賀県大津市晴嵐二丁目7番1号

創立：1949(昭和24)年12月1日

代表者：取締役会長 / 有岡 雅行

代表取締役社長 / 松本 元春

事業場：大津、滋賀高月、能登川、精密ガラス加工センター

営業所：大阪、東京

主要事業：ディスプレイ用ガラス、電子部品用ガラス、
ガラスファイバ、医療・耐熱・建築用ガラス

連結子会社：26社(国内11社、海外15社)

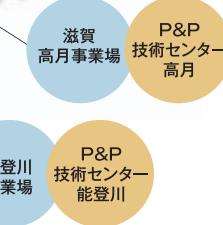
国内拠点

- ：生産拠点
- ：開発拠点
- ：販売拠点

本社
大津事業場

P&P
技術センター
大津

東京支社
・東京営業所



グローバルネットワーク

アジア / 東南アジア

- ・日本電気硝子
- ・電気硝子(廈門)
- ・電気硝子(広州)
- ・坡州電気硝子
- ・台湾電気硝子
- ・日本電気硝子(韓国)
- ・電気硝子(南京)
- ・Nippon Electric Glass (Malaysia)



ヨーロッパ

- ・Electric Glass Fiber UK
- ・Electric Glass Fiber NL
- ・Nippon Electric Glass Europe

アメリカ

- ・Nippon Electric Glass America
- ・Techneglas
- ・Electric Glass Fiber America

▶企業理念体系

わたくしたちは、“文明の産物”の創造を通して
社会に貢献するという創業の精神を、
企業理念の底流をなすものと位置付けています。



ガラスの持つ無限の可能性を引き出し、モノづくりを通して、豊かな未来を切り拓きます。



GLASS FOR FUTURE



世界一の特殊ガラスメーカー



- ・お得意先第一・達成への執念
- ・自由闊達・高い倫理観・自然との共生

▶当社の環境保全の考え方

“自然との共生”を大切な価値観として環境に優しいモノづくりに努めています。

当社は“自然との共生”を大切にしている価値観として掲げ、自然と共存することを常に意識して事業を続けてまいりました。また、世界一効率の高いモノづくりこそが、世界一環境にやさしいモノづくりにつながるもの信じています。この考え方のもと、環境負荷の低減のみならず、持続可能な発展や生物多様性の保全など、さまざまな課題に対処してまいります。

環境憲章は、当社の環境に対する基本方針であり、環境保全の取り組みにおいて進むべき方向性を指示したものです。当社といたしましては、環境憲章に基づき、これからもグループ各社とともにガラスを通して地球環境の保全と循環型社会の実現に寄与してまいります。

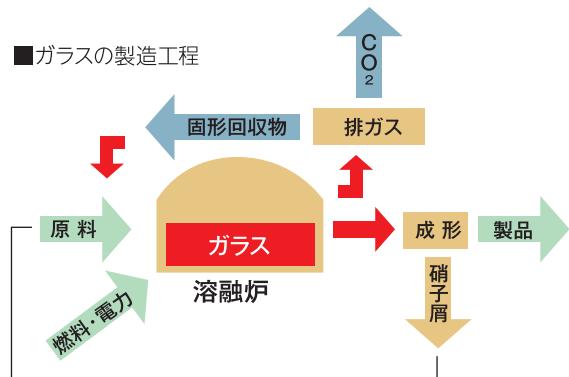


代表取締役社長
松本 元春

ガラスの製造工程と地球温暖化対策

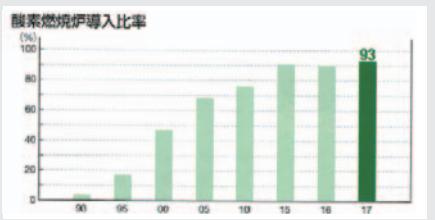
ガラス溶融の熱エネルギーは化石燃料と電力を使っている

ガラスは砂のような原料に化石燃料や電力から得た熱エネルギーを加えて、溶融炉で溶かして作ります。溶けたガラスは板や管や繊維などに成形して製品になります。溶融炉で化石燃料を燃焼させると排ガスが発生し、排ガス中に含まれるCO₂が排出されます。



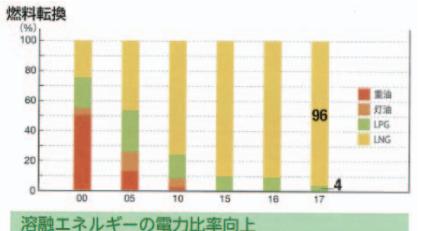
1 酸素燃焼炉の導入

酸素燃焼炉とは化石燃料を空気ではなく、純酸素を用いて燃焼させる炉を言います。燃焼に寄与しない窒素を排除することで排ガス(排熱)が減るなど熱効率が向上し、省エネルギー、CO₂排出量削減につながります。



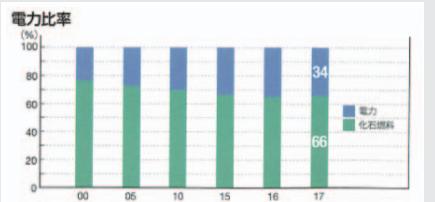
2 ガラス溶融炉の燃料転換

単位エネルギー当たりのCO₂排出量を重油を100とした場合、LPGは85、都市ガスは73です。CO₂排出量を削減するため、ガラス溶融炉に用いる燃料のガスへの転換を進め、都市ガス、天然ガスへの転換がグローバルで全て完了しています。



3 溶融エネルギーの電力比率向上

化石燃料を燃焼させると排ガスの持つ熱エネルギーを捨てることになります。ガラスに電気を直接流し、ジュール熱を利用してガラスを溶かすと燃焼排ガスが発生しないため、省エネになり、CO₂排出量削減になります。電力比率を高める取り組みを今後も積極的に展開していきます。



2018年 日本機械学会 「機械遺産」に 認定



機械遺産 第93号
ブラウン管ガラス製造装置

品質と生産性を格段に向上させた究極の省エネを実現させた世界初の機械です。



機械遺産認定部分



43inchブラウン管
テレビ製品と認定機械

自然との共生取り組み（能登川事業場）

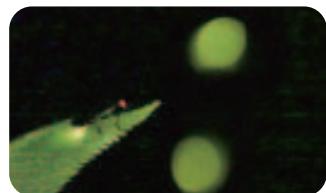
黙々川：事業場内を流れる河川。自然のまま残し、一切、手を入れていません。



黙々川の春



黙々川の夏（2009年8月嘉田知事）



黙々川の螢



黙々川の冬



潜在自然植生の緑道

能登川工場開設時1971年に工場以外の場所は手を入れることなく自然のままに残しました。鈴鹿山系の潜在自然植生を生かす樹木が広がります。

日本電気硝子（株）は、しが生物多様性取組認証2018を取得



「しが生物多様性取組認証制度」は生物多様性の保全や自然資源の持続的な利活用に取り組む事業者を滋賀県知事が認証する制度です。

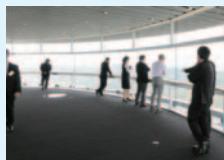


Topics

企業見学会 開催 2018.10.10(水)

今年度、第一回目の工場見学会を実施いたしました。今回は、2006年4月に本社ごと移転され、ビッグウイングと名づけられた地上高さ170mのエレベータ研究棟が遠くからでも目を引く、フジテック(株)の一大拠点を見学し、北ビワコホテルグラツィエ長浜にて昼食後、姉川水力発電所やバイオマス発電所を手がける、山室木材工業(株)(株)ヤマムログループを見学させていただきました。一日かけて2社、3拠点を見学させていただきました。受け入れいただいた2社の皆様、お世話を掛けました。ありがとうございました。また参加されました皆様、お疲れ様でした。

▼フジテック株式会社



▼山室木材工業株式会社



●場 所：フジテック(株)（彦根）および山室木材工業(株)（米原）

●参加者：協会会員様 25名

森林整備ボランティア 開催 2018.11.10(土)

初めての森林整備ボランティアを、今回は金勝生産森林組合のご協力を得て、こんぜの里近くの森林にて開催しました。森遊館前にて、組合長の澤様よりお話を頂戴し、そのあと小鑓参議院議員、竹村滋賀県議会議員にご挨拶を賜り、作業説明の後、森遊館近くの森林整備を行いました。大半は苗木の獣害防止ネットの取り外しを行いました。参加された皆様は、琵琶湖に流れ込む水の源を整備しているという、やりがいを持って楽しく作業ができたのではないかでしょうか。その後森遊館のBBQ施設にて懇親BBQを開催しました。金勝生産森林組合の皆様、森遊館の皆様、お世話を掛けました。ありがとうございました。また参加されました皆様、お疲れ様でした。



●参加者：協会会員様 26名

新春特別講演会・賀詞交歓会 2019.1.25(金)



▲仁連会長の開会挨拶



▲小寺衆議院議員



▲琵琶湖環境部
廣脇部長



▲金子 浩明室長補佐



▲上野衆議院議員



▲二之湯参議院議員



▲小鑓参議院議員

琵琶湖ホテルで恒例の新春賀詞交歓会を開催しました。仁連会長の開会挨拶のあと、第一部では、小寺衆議院議員と琵琶湖環境部の廣脇部長の琵琶湖保全・再生に因んだお話とご祝辞を頂戴し、大岡衆議院議員のご祝辞を岸田秘書が代読されました。特別講演会では、環境省環境再生・資源循環局リサイクル推進室の金子浩明室長補佐に「プラスチックを取り巻く国内外の状況」と題してご講演頂きました。国際的な資源循環の取組から、琵琶湖の保全・再生の話まで、写真を多用し見やすく、分かりやすい口調で説明していただき、皆様に大好評を得ることができました。金子室長補佐には心より御礼

申し上げます。

第二部は賀詞交歓会、上野衆議院議員、二之湯参議院議員、小鑓参議院議員からご祝辞を賜り、武村衆議院議員のご祝辞を花崎秘書が代読、有村参議院議員のご祝辞を吉田専務理事が代読し、講師や各議員、琵琶湖環境部の方々と協会会員他の事業所の皆様の名刺交換や会話、そして美味しい食事とお酒に和やかな雰囲気の中、無事交歓会も終えることができ、皆様方無事帰宅の途に就かれました。ご来賓の皆様方また参加者の皆様方に厚くお礼申し上げます。



新規入会会員のご紹介

(平成30年10月1日～平成31年3月31日)

会社名	株式会社平安製作所		代表者氏名 及び役職	代表取締役 前田 昭宏
業種	輸送用機械器具製造業	TEL	0740-27-2158	
従業員	140名	FAX	0740-27-1282	
URL	http://www.heian-mfg.co.jp/	E-mail	yoshihara@heian-mfg.co.jp	
住所	〒520-1823 高島市マキノ町中庄464番地			



1939年に操業、今年で80周年を迎えます。トランミッショングループ品、エンジン部品、車体部品など自動車部品を主に板金プレス加工・機械加工・溶接組立・塗装など一貫生産を行なっています。「明るく、楽しく、元気よく」をモットーに「信頼」と「進化」を掲げ、独自の板金技術、精密板金技術によって世界一のモノづくり企業を目指しています。温暖化、琵琶湖環境保全等、環境保全活動に努めてまいります。よろしくお願いします。

会社名	株式会社アルナ矢野特車		代表者氏名 及び役職	取締役社長 矢野 彰一
業種	保冷・冷凍バン製造	TEL	0749-55-2161	
従業員	140名	FAX	0749-55-2165	
URL	http://www.alnayano.co.jp/	E-mail	miki@alnayano.co.jp	
住所	〒521-0231 米原市村居田1273			



当社は、冷蔵・冷凍車を製造する輸送機器メーカーです。創業100年近い歴史をもつ(株)矢野特殊自動車を親会社とし、グループで大型冷凍車の約3割のシェアは全国トップです。全てがオーダーメイドで、路上で自分が作った冷凍車と出合う喜びがあります。歩みを止めないチャレンジスピリットで、信頼される製品の作り出し、時代にマッチしたボディをお客様にご提供いたします。また、環境についても地球にやさしい環境づくりを進め、地域に根差した取組みとして環境負荷の低減に積極的に取り組んでまいります。

会社名	石井電気システム有限会社		代表者氏名 及び役職	代表取締役 石井 桂子
業種	デマンド・コントローラーの製造・販売・施工	TEL	0740-32-0164	
従業員	7名	FAX	0740-32-2856	
URL	http://www.ishii-system.com	E-mail	y.ishii@ishiidenki-system.com	
住所	〒520-1217 高島市安曇川町田中43-7			



中小企業向けのデマンド・コントロール・システムの研究を続けて20年。
数千台の販売実績の中で進化を続け、特許技術による気づかれずでなく使用電力量も大幅に削減できる実績から、全国規模の大手企業にも採用されています。

会社名	株式会社林田鉄工		代表者氏名 及び役職	代表取締役 林田 知親
業種	製造業	TEL	0748-82-0066	
従業員	7名	FAX	0748-82-2897	
URL	http://www.hayasida.co.jp/	E-mail	info@hayasida.co.jp	
住所	〒529-1811 甲賀市信楽町江田41-1			



弊社は長年、窯業機械製造メーカーとして全国の皆様から幅広いご愛顧を賜っております。そのノウハウを駆使し、新たに環境事業部を立ち上げエコループラインプラスとかすみ触媒を融合し、低温・化学分解炭化装置を開発する事を実現いたしました。有機物残渣でお困りの方、是非エコループラインプラスにてエコリサイクルをしませんか？

「地域別環境保全研修会」終了のご報告

2月4日から3月12日までの期間で南部、甲賀、東近江、湖東、湖北、高島の各環境事務所および大津市との共催にて、地域別環境保全研修会を開催いたしました。この研修会は、地域の企業が県の工場立入調査と最新の法改正の情報提供に対して意見交換することにより、地域のレベルアップを図り、環境保全に地域行政と協働して取組むことを目的としております。協会からは、西田講師による「環境リスクと経営課題」と岸講師による「化学物質と産業廃棄物管理」の講演を実施しました。参加者は、合計322(会員104)名で昨年比102%でした。誌面の都合上、詳細は次号に掲載いたします。皆様方からの更なるご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。